

クローズアップ「自主防、

～育もう！地域防災コミュニティ④～

南区宝南学区
元塩東自主防災会会長

中村 龍彦



元塩西自主防災会会長

大坪 菊美



○はじめに

「地域密着型訓練」は、まち中を訓練会場として、所々に仕掛けた「災害」に対し住民自らが対応する訓練です。

具体的には、まち中の複数の箇所まで火災やけが人が発生したという想定をします。そして、これらを知らされていない訓練参加者は、町内会や個人が備えている消火器や包帯、担架などの資器材を持ち寄り対応します。

<訓練の流れ>

地震発生を想定したサイレンを合図に訓練開始。
本部にて参集状況の確認、班編成実施。被害状況の確認など各班に任務付与。

▼現地本部にて情報収集を指示



消火班は、消火器を集めて仮想
出火場所（3棟南側広場）に急行。

▼消火班により消火器を使用して消火



▼消火器による消火成功の合図



災害発生とともに各自の身を守り、自分たちの生活の場で発生した火災やけが人が人に対応し、通行不能な道を通らずに避難するのです。この訓練を通して、目の前の災害事象に臨機応変に対処する力が養われます。

私たちの二つの自主防災会は、10階建の市営元塩荘の住民で構成されています。そこで、建物上階に負傷者の発生を想定し、これに対応するための立体的な訓練を取り入れるなど、高層住宅の特性を踏まえた訓練を実施しました。

訓練当日は、地震発生時のサイレンを合図に、二つの自主防災会が同時に訓練を開始しました。今回は、宝南消防団や南消防署の協力を得て、貴重な訓練体験ができましたので紹介させていただきます。

○地域密着型訓練の概要

・日時

平成18年11月12日9時30分～11時30分

・場所

南区浜田町4丁目及び元塩町4丁目

・参加者

市営元塩荘一帯
元塩東及び元塩西自主防災会65名、宝南消防団20名、南消防署員6名

救出救護班は、パール、ジャッキ、三角巾、毛布などを携行し、仮想家具転倒場所へ急行

▼毛布を使用して負傷者を搬送



▶救出救護班により家具下の負傷者を救出



▼負傷者が搬送された救護所の状況



▶救出した負傷者を応急担架で救護所へ搬送



4棟北側広場で火災が拡大し延焼危険ありの情報に、自主防災会会長は全員避難と火災の消火に可能な限りの人員を投入することを決定。

避難誘導班は、全戸に避難を呼び掛け、避難所（集会所）へ誘導。消火班は4棟北側広場へ急行。



▲消火班のバケツリレーにより4棟北側広場の火災を消火（水源は防火水槽）

○おわりに
自主防災会会長として、実践的である「地域密着型訓練」を初めて実施するにあたり、事前に宝南消防団や南消防署と訓練の打ち合わせを行いました。その結果、現地本部にて「情報班」からの情報により、被害状況や避難者の状況をスムーズに掌握することができました。また、「初期消火班」への指示や「救出救護班」への指示もうまくいったと思います。しかし、突然起きる災害に対処するのは、非常に困難なことでありと痛感しています。
今後このような訓練を重ね、少しでも被害を軽減できるよう、自主防災会の各班長を中心に、町内の皆さんと連携を深めて行きたいと思いを。

▼避難所（集会所）での反省会の状況

